

「第11回近畿中心市街地活性化ネットワーク研究会」が 守山市において開催

2月15日(水)午後1時から「第11回近畿中心市街地活性化ネットワーク研究会」が滋賀県守山市の守山駅前コミュニティホールにて開催されました。



この日は、北は福井県福井市、京都府福知山市、南は和歌山県田辺市など近畿2府4県のほか三重県四日市市、愛知県豊田市、岐阜県多治見市、富山県高岡市からも参加があり、中心市街地活性化に係わる21の市から行政、中心市街地活性化協議会、まちづくり会社、商工会議所の担当者が、また近畿経済産業局並びに中小企業基盤整備機構本部や近畿・中部・北陸支部、近畿地方整備局などからの関係者81名が参加して、ネットワーク研究会が行われました。その後、まちなか視察として銀座商店街を通り宇野宗佑元首相の生家を整備した“うの家”へ案内していただきました。

研究会全体会は第1部と第2部とで構成され、第1部では、開会にあたり守山商工会議所の大崎忠男会頭より「守山市ができて40年、商工会議所が25年、(株)みらいもりやま21が3年半である。行政からまちづくり会社を創るようにと話があり、行政(1千万円)、商工会議所(5百万円)、市民からの出資金計5,225万円で(株)みらいもりやま21を設立した。出資金の市

民のシェアは70%を超えている。まちづくりにおいては、三者がうまく噛み合い三位一体で取り組んでおり、商工会議所と(株)みらいもりやま21とは互いにフォローしながら賑わい事業に取り組んでいる。守山のランドマーク“うの家”ができた。本日は賑わい振興にバルも予定されており時間の許す限りごゆっくりくつろいでいただきたい。皆さん方のまちのご繁栄をご祈念申し上げます。」と挨拶をいただきました。

その後、守山市の宮本和宏市長より「守山市中心市街地活性化基本計画にかける想い」についてお話を伺いました。

守山市は、人口7万8千人、毎年約千人ずつ増えている。年少人口が1万4千人で子どもを育てやすいイメージがある。平成18年から3年間、国土交通省から出向で守山市中心市街地の活性化の担当をしていた。自分の取り組みを実現させたい想いで昨年選挙に立候補して市長となった。守山市は平坦で山はないが、比叡山を東から守るところから守山となったとも言われており、沖積平野で肥えた土地、農村文化が栄えた。





近年は新しい人が増え、一緒に暮らすことが住みやすさにつながる、新しいまちをつくろうを合言葉にまちづくり会社を創り、平成21年3月には中心市街地活性化基本計画の認定を受けた。ハード事業は市で、賑わい事業はまちづくり会社で、60億円の予算をかけた取り組みを進めている。また活性化の核をまちなかにつくろうと平和堂や近江鉄道にも協力をお願いしているところである。商工会議所会頭、(株)みらいもりやま社長、市長が2週間に1回会って、いろいろな話し合いを行っており市と民間、まちづくり会社が連携を密にして活性化に取り組んでいる。基本計画にある、将来の少子高齢社会などを見据え、水、緑、ホテル、歴史を活かし、誇りと愛着の持てる魅力ある街並みを目指し、市民・事業者・商業者・行政が一丸となった



まちづくりを推進している。駅前の活性化が全体の活力を生む、中心市街地の活性化を成功させたい強い想いを持っている、とおっしゃっていました。

引き続いて、(株)みらいもりやま21の清原健代表取締役より「ブランドづくりと小規模連鎖～ものづくりの会社社長だからこそできるまちづくり～」について説明を受けました。

まちづくりのリーダーは市長であり、まちづくり会社はサポートである。私は繊維会社の社長で地元と利害関係がなかった。各地のいろんな所を見て回ったが表には出ていないところを見ることにしている。今日

も表向きでなく本音を聞いてもらいたい。守山では市・会議所・まちづくり会社三者のトライアングルがうまくいっているが、下への連絡がうまくいっていない。連絡は密にしておくことが大事である。中心市街地活性化構想が失敗することはまちづくり会社がつぶれる事である。市に普通の経営では無理だと言ってきた。守山の強みは住みやすさ、居心地の良さで、住んでいる人に郷土愛をもってもらうことである。音楽が流れる文化と歴史の中山道、その発信拠点が“うの家”、1月29日にオープンし、これまで3千人の来客があった。まずは地元の人が楽しむものであること、それから観光的要素も加えていきたい。まちづくり会社の



責任は大きい。収益を上げて、賑わい事業に還元する仕組みづくりを行いたい。市から最大限のサポートをしてもらって、商工会議所との連携もとれている。市民から、つぶしてはいけないと思っていただける会社にしたい、ということでありました。

続いて、全体会第1部の最後として鉄人工房マツヤの松谷悦男氏より「商売人から見た守山のまちづくり～ほたる探検紀行(バル)、100円商店街、まちゼミに参加して～」についてお話をいただきました。

2百メートルほどの銀座商店街の店主で、衣料品店を40年している2代目である。「モノを売るよりコトを売れ」「損して得(徳)取れ」をモットーにやっている。





商売ではモノを売ることを前提としている、物販店では在庫品を3～4割抱えては儲からない。愛知県の岡崎で街ゼミに出会った。街ゼミは、商店街のお店が講師となり、専門的な知識を受講者（お客様）にお伝えるゼミで、『お客様』『お店』『地域』の“三方よし”の活性化事業であり、お店とお客様のコミュニケーションの場から信頼関係を築くことを目的とする事業である。商売人には街ゼミの理念を徹底してやってもらいたい。

東北の齋藤一成さんが百円商店街をやった。守山では銀座夜市として百円で遊べる夜店を行っている。各商店主が自らの業種でない飲食などを提供し百円で遊



べて楽しむことができる、子どもたちだけでも参加できる保護者に信用をおけている事業である。これを継続していくためには商売人の力が必要である。

まちバル（ほたる探検紀行）は、駅から5百メートルの距離で蛍が乱舞する、物販店舗も参加できるイベントである。街コンは、若者が自主的にやっているものである。

街ゼミ、百円商店街、まちバルこれら三種の神器をまちづくりにまとめることで商店街の活性化がまちの活性化になる。しっかりとした気持ちを持たないと続けることはできないし、まちの活性化にならない、とのお話でありました。

その後、研究会全体会第2部のワークショップにお

いて、テーマ「女性をまちづくりに巻き込む工夫」「若手店主（特に起業家）がまちづくりに関わるためには？」について9名から10名の8班に分かれ、テーマに沿って意見を述べ、最後にその意見のまとめを各班の代表が発表して全体会第2部が閉会となりました。

引き続き、まちなか視察が行われ、JR守山駅から銀座商店街を通り、守山宿・町家の“うの家”まで案内していただきました。



うの家は、宇野宗佑第75代内閣総理大臣の中山道に面した生家を譲り受け、江戸時代末期から明治初期に建てられた主屋、造り酒屋の趣を残す蔵などを改修し、展示室、ギャラリー、飲食店を整備した守山市歴史文化まちづくり館で本年1月29日にオープンした。指定管理者の㈱みらいもりやま21の清原代表取締役がやっとスタートラインについたところと説明されていたのが印象的でした。

守山市の中心市街地活性化の切り札と期待されている、中山道守山宿に新たに誕生したランドマーク“うの家”へ案内していただいて、今回の研究会を終えました。

今回の研究会では、守山市の魅力ある街並みを目指して、まちづくり会社と商工会議所、行政が連携を密に市民・事業者・商業者・行政が一丸となったまちづくりの取り組みをされていることに感動を覚えました。





しあわせ回廊なら瑠璃絵 開催報告

主催：なら瑠璃絵実行委員会

開催期間 平成24年2月8日（水）～14日（火）7日間

点灯時間 17時30分～20時30分

開催内容 春日大社本殿、東大寺戒壇院戒壇堂、興福寺東金堂、国宝館の夜間拝観。
三社寺をつなぐ奈良公園内（メイン会場は新公会堂中庭）におけるLEDライト等によるあかりの演出。
奈良国立博物館の夜間開館、壁面への投影 等。
三社寺と国立博物館での特別講演会。（9・10・11・12日）
奈良県新公会堂、特設舞台での野外ライブ。（8・9・10・13日）
奈良県新公会堂、能楽ホールでのバレンタインプレミアムライブ。（14日）
一般参加型の提灯行列。
十津川温泉の足湯設置。（8・10・11・12・14日）
奈良県南部地域復興支援物産展。（十津川村、五條市、天川村）
若草山で冬花火の打ち上げ。（14日）
高齢者、身障者優先の無料バス運行。

来場者数 36万8千人（8日～14日の7日間）

2月 8日（水）	晴れ	30,000人
2月 9日（木）	曇り	22,000人
2月10日（金）	曇り	41,000人
2月11日（土）	晴れ	128,000人
2月12日（日）	晴れ	88,000人
2月13日（月）	雨	15,000人
2月14日（火）	雨のち曇り	44,000人



第3回目の開催で、来場者数は前年に比べ3千人の増であったが、前半厳しい気温の減少、後半雨の中での開催、土曜日と祝日が重なったこと等を考えると、回を重ねるごとに知名度が上がっているものとする。また、三社寺の夜間拝観へも非常に多くの方にご参拝いただいた。これは「春日大社、東大寺、興福寺という奈良を代表する三社寺を幻想的な光の道でつなぎ、それぞれの社寺で手を合わせていただくことで、皆様にしあわせが訪れるよう、そしてその小さな祈りの数々が大きな平和の祈りとなって世界に届くように」という「しあわせ回廊なら瑠璃絵」の趣旨が定着しつつある結果と考えている。来年もおもてなしの心を持って継続して事業を開催し、2月の奈良の魅力アップを図り、観光振興や地域振興に貢献していきたいと考えている。